

令和7年度 産業廃棄物税充当事業 実績報告書

事業名：	瓦などの廃材を活用したセリの新たな養液栽培システムの開発
事業実施期間：	令和7年度から令和9年度
担当課室名：	農業振興課(農業・園芸総合研究所)
担当班名：	普及支援班(露地園芸部露地野菜チーム)
TEL：	022-211-2837 (022-383-8124)
e-mail：	marc-re@pref.miyagi.lg.jp
URL：	https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/index.html

1 事業の目的

地震災害による瓦のがれきや改築等で廃棄される屋根瓦等の廃棄物を利用し、宮城独自のセリ養液栽培システムの培地として再利用することで、省力・低コストな栽培方法として提案、セリブランドの強化・育成に資する。

2 当該年度の実施事業の概要・実績

瓦等廃棄物のセリ養液栽培への再利用を以下の試験により検討した。

- (1) 瓦チップ培地の大きさが生育・収量に及ぼす影響を検討するため、大小の瓦チップで栽培試験をした結果、瓦チップ大で栽培したセリは、瓦チップ小で栽培した場合よりも本数は多くなるが、細く草丈も小さく、需要の高い地下部の重量も下回った。
- (2) 電照利用による種ゼリ確保技術の検討では、LED 電照を 16 時間日長に管理して栽培すると、種ゼリに利用できるランナーが発生することが確認された。本試験では、植付け後 58 日で 1 m²当たり約 222 本の種ゼリを採取することができ、その種ゼリを植付けると、発根、萌芽することが確認できた。
- (3) セリ養液栽培システムの現地実証では、2 経営体（名取市、大崎市）で現地実証を行った結果、10 月上旬の種ゼリ植付けで 12 月中下旬に収穫可能となった。調製重量 1.6～2.0kg/m² を収穫することができ、商品率はほぼ 50%程度を確保できた。

3 当該年度の実施事業の成果

セリ養液栽培システムの現地導入数は 2 件となった。事業計画時の瓦チップの目標使用量は 800 kgであったが、それを上回る 1,800 kg(計画時目標の 225%)を使用することが出来た。

4 今後の展開

引き続き瓦チップを利用したセリ養液栽培システムによる栽培試験を行うとともに、研修会の開催等を通してセリ養液栽培に興味を持つ生産者等を増やし、瓦チップの使用量を増加させる。

5 廃棄物の削減・リサイクル、適正処理の促進の効果等を示す指標の数値

(指標：瓦チップの使用量) 単位：kg

令和6年度	令和7年度
0	1,800

6 事業費の推移

単位：千円

令和7年度
3,766